大阪梅田地域の地蔵祭祀

村　上　興　匡

・　はじめに

昭和62年から都市化と宗教との関わりについて大阪市北区梅田で行われた共同調査に参加した。この調査は，関西地域において戦後もっとも都市化の激しかった地域として大阪駅周辺，特に梅田を選び，すでに調査を行っていた東京都中央区銀座と比較を行うことによって地域的特性の有無を考察することを目的としていた。個人的には「地域の諸変化にともなって祭祀のあり方や主体となる集団にどのような変化がみられるか？」という問題意識をもって，対象としてはおもに梅田にある地蔵に対する祭祀と仏教寺院を担当した。

現在の梅田で行われている地蔵への祭祀のされ方は，他の関西地域で伝統的に行われている石仏への祭祀とかなり様態の異なったものである印象をうけた。その差異は梅田の地蔵祭祀が元々もっていたものであるというより，むしろ梅田の地域集団のあり方や生活様式の変化に対応する形で，宗教的事物に対する行動が新たに大きく変化してきたものと考えられる。今回はＪＲ大阪駅周辺におかれた三体の地蔵について，その祭祀の変遷と現状について報告し，その祭祀のされ方や，それを支える集団にみられる特質がいかなる地域変化に対応する形で形成されてきたものであるかについて考察を加える。

・　地蔵祭祀の変遷と現状

今回調査地として設定したＪＲ大阪駅周辺の地域には現在三体の地蔵があり，それぞれ別々の集団が異なったやり方で祭祀が行われている。①北向地蔵②梅田地蔵③延命地蔵の三体である。各々阪急三番街地蔵横丁，曽根崎二丁目曽根崎警察署裏，芝田町二丁目にあって阪急梅田駅を囲む鋭角三角形をなしており，その最大辺においても 600メートルと離れていない距離にある。以下その祭祀の現状とその変遷について順に報告する。

①　北向地蔵　（阪急三番街地蔵横丁）

(1) 北向地蔵の現状

阪急梅田駅の西北に阪急三番街があり，その東側に地蔵横丁がある。その地蔵横丁の南端，紀伊国屋書店の横に北向地蔵の祠がその名のとおり北向きにつくられて祀られている。祠の前には常時蠟燭と線香が用意されており，そこに参拝する者は自由にあげることができるようになっている。

北向地蔵では定期の行事としては，8月23日熊野本宮大社による護摩供養大祭，翌24日真言宗太融寺住職によって盂蘭盆供養が行われる。また10月12日には，やはり太融寺の住職によって御遷座祭，そのほか毎月24日に月並み祭が行われている。

(2) 祭祀の変遷

現在の場所で祀られるようになる以前から北向地蔵の祠は大阪駅のそばにあった。元々北向地蔵は明治24年に当地に住んでいた仲谷彌三兵衛が自家の畑を地ならしした際に出土し，その後同氏が祭主となって，明治26年10月16日に北向きに御堂を建立して祭祀をはじめたものだという。(1)

現在阪急三番街となっている地域は，以前は小深町，および芝田町一丁目という町であった。北向地蔵はもともと小深町にあり，阪急が関わるようになる以前には，地元の小深町会が地蔵盆の祭日に，近所の西善寺に依頼して盂蘭盆供養を行っていた。阪急が梅田駅の拡張を行うにあたって小深町全体を買収したが，お地蔵さんはそのまま残された。その後工事期間中に三回ほど敷地内の移転を繰り返した。現在の位置に移動する直前には，今の新阪急ホテルの敷地の真中あたりにあったことが知られている。この間には特定の集団による定期的な祭祀は行われていなかったらしい。

昭和43年に阪急三番街がつくられるにあたって，阪急電鉄と縁のあった豊中市千里山の浄土真宗寺院万福寺に移転されることになり，実際一時は万福寺に移転された。しかし，当時阪急三番街にテナントとして入ることを希望していた本田忠雄氏（現在阪急三番街にコーヒーショップを経営）がその移転の話をきき，当時の阪急社長に元に戻すよう働きかけた。そしてこの間の細かな経緯は不明であるが，最終的には社長が地蔵を戻して阪急三番街の中で祀ることを決断した。以後，この本田氏が中心となって北向地蔵の世話にあたっている。

現在の場所に遷座した際に，阪急三番街のテナントが中心となって阪急三番街北向地蔵奉賛会がつくられた。現在の奉賛会長は阪急社長が務めている。

一方，実際の日々の地蔵の世話は，前述の本田氏と2人の元阪急社員の人（東山幸治郎氏，松村泰次氏）によって行われている。本田氏は毎朝阪急沿線にある自宅から始発でやってきて供物をかえ，祠の掃除を行っている。本田氏が祠の中の掃除を行い，外を東山氏と松村氏が一日交替で行う。東山氏も松村氏も元々は阪急の社員だったが，退職間際にビル管理課に配属されて北向地蔵と関わるようになり，退職後も本田氏の元で地蔵の世話

を続けている。

日々の世話だけでなく，現在の北向地蔵の祭祀のやり方はおもに本田氏によって決定されており，またそれはかなり独特なやり方であるといえる。本田氏は元々信仰好きの家に育ち，終戦直後には新大阪ホテルにつとめながら天地乃大教の教祖(2)，岡田松乃助の道場で宗教的な修業をおこない，戦前からうち捨てられた社の復興を行っていた。現在この北向地蔵のほかにもロイヤルホテル，大阪グランドホテルの守護神についても定期行事の世話もしている。

北向地蔵の祭祀は本田氏によって取り仕切られているように見える。現在北向地蔵が祀られている場所の選定を阪急から委託で本田氏が行ったのをはじめとして，定期的に行われている月並み祭，盂蘭盆供養や御遷座祭などの儀礼も，本田氏によって式次第が決められており，儀礼を依頼する宗教職能者の選定も本田氏によって行われている。たとえば本田氏の姉が真言宗に関わっている縁から，月並み祭，盂蘭盆供養を太融寺に依頼している。また護摩供養大祭が熊野本宮大社によって行われるようになったのは，本田氏の修行の師匠が熊野本宮大社の宮司と懇意であったためであるという。遷座祭，大祭などの定期的な儀礼を行うときには阪急の総務部や，ビル経営部から手伝いが出るが，式の準備や進行，運営も本田氏を中心として行われている。本田氏は何を供物や供花にするかについてもかなり厳密な限定をくわえており，他の奉讃会員のなかには細部にそこまで拘ることに対して抵抗を感じる者もある。

(3) 北向地蔵の参詣者

現在北向地蔵の参詣者は平日でも後を絶たないほどあり，順番を待って数人の人がならんでいる風景もしばしば見受けられる。東山幸治郎氏によれば，参拝者が多くて掃除ができないこともあるという。また最近4，5年の間には通勤途中にお参りする若い人が増えてきているそうである。

前で拝み，祠の後ろに回って地蔵をおこすように叩いてから，また前で拝むというように，熱心に拝んでいる人も多い。御堂の後ろに回ってみると，一部が白く光っている。観察するところ，参拝者の10人に5人はこれをやっている。

参拝者の数の多さを示す一つの指標として，北向地蔵にあげられるお賽銭の額をみてみると，昭和63年の一年間で八千万円に昇っている。これらのお金は歳末助け合い等に寄付される。

また奉賛会では交通安全と身につけるお札を一年にそれぞれ一千体ずつつくり，これを盂蘭盆供養祭のときなどに信者に配っている。

② 梅田地蔵　（曽根崎二丁目曽根崎警察署裏）

(1) 祭祀の現状

曽根崎警察署の敷地の東南の角に，まるでビルに抱え込まれるように小さなお地蔵さんの祠がある。出土した時大いに祟をなしたと伝えられるこの地蔵は，通称「ごて地蔵」とも呼ばれている。この祠の前にも線香と蠟燭がおかれており，参詣者が自由に供えることができる。

現在曽根崎上二丁目町会が中心となってこの地蔵の管理と祭祀を行っており，地蔵の世話役も町内会の班長が務めることになっている。毎日の線香，蠟燭，水の取り替え，掃除等の世話も町内会が頼んで近所に住んでいる人にやって貰っており，現在は一区画ほど離れた場所にある割烹菊屋のおかみさんがこれを行っている。

定期的な行事としては，毎年8月24日の地蔵盆のときに，やはり太融寺から僧侶を呼んで供養の儀礼を行っている。儀礼を主催するのは曽根崎上二丁目町会とすぐ隣にあるお初天神通り商店街であり，現世話役の塩野清氏によれば地域の親睦のお祭りとしての性格が強いのだという。

(2) 祭祀の変遷

先代が梅田地蔵の祀り出しに関わった不動寺の住職によれば，梅田地蔵は昭和4年に以前の警察庁舎の建設したときに署長官舎建設予定地（現在の曽根崎警察署と大和銀行の間くらいの場所）から出土したものだという。官舎を建てるのに邪魔であるというので，阪神デパートの裏あたりに移動してそこで祀っていた。ところが当時の署長が落馬事故で死亡したり，近隣に病気がはやるなど悪いことが続いて起こり，お地蔵さまがごてて（祟って）おられるのだろうという噂が立った。それで当時は御堂筋沿いにあった不動寺の先代住職が警察署の敷地内に祀りかえし，以後寺が豊中市に移転するまで地蔵盆の世話も不動寺が担当した。

不動寺が移転してからは太融寺が引き継いで地蔵の世話を行ってきた。昭和49年の現庁舎建設のときも，工事期間中は祟られることのないよう太融寺に預けたという。現在の地蔵の社はこのときつくられたものである。「梅田地蔵尊遷座建立奉納両芳名」帳をみると，近隣の商店街の有志だけでなく庁舎工事に関わったと思われる会社から，多額の寄付がなされていることがわかる。(3)

戦中戦後は地元の警防団が中心となって祭祀を行っていたようだが，現在の祠をつくったのを機に完全に町内会のみで祭祀するようになった。

(3) 梅田地蔵の参詣者

梅田地蔵においても年々賽銭の額が上昇する傾向にある。塩野氏によれば，お地蔵さんはもともと子供の神様であるから三十代から四十代くらいの女性がよくお参りするが，それ以上に梅田地蔵は賭事の神様として知られており，最近はそのお参りが多いのではない

かという。梅田地蔵にお参りしてから馬券をかったりパチンコをしたりすると勝つといわれており，特に新聞や女性週刊誌の賭事にきく神仏特集などに取り上げられて(4)からは，その種のお参りが増えてきているようだという。験を担いでいくのか地蔵の石像を欠いてゆくものがあり，何度か地蔵の顔を欠かれたこともあるという。

③　延命地蔵　（北区芝田二丁目）

(1) 祭祀の現状

中央競馬会の梅田場外馬券場の裏，長屋とビルにはさまれた路地にはいってゆくと，しっかりした木組みの柵に囲まれた社がある。それが延命地蔵である。

延命地蔵の祭祀は旧牛丸町の人々がつくっている地蔵講が中心となって行なわれている。現在地蔵講のメンバーは15人おり，そのうち11人が月毎の交替で，毎日水やお茶，お線香を替えるなどの日々の世話をしている。

昭和53年の住居表示制度の改正にともなう町名変更で今の芝田二丁目町会になった(5)ときから，町内会からも援助があるようになり，そのときに祠も町会と場外馬券場からの援助によってつくられた。

８月２４日に近い土，日曜日に御詠歌会と地蔵盆供養を行う。地蔵盆の日当日に行うのが本当であるが，平日では準備ができないためである。祠の廻りに垂れ幕を張り，中の提灯やよだれかけもこのとき取り替え，その後一年間かけておく。子供のある人が子供の無病息災などを祈願して提灯を供える。提灯には子供の名前を書く。よだれ掛けは町内で新生児の生まれた家がかけることになっている。しかし実際は町内で生まれる子供の数は本当に少なくなっているので，町内の者がその関係者の代理であげることが多いのだという。そのほか路地に綱を張り巡らして，そこに提灯を並べて下げる。提灯には供え物や寄付をしてくれた人の名前をいれる。

土曜日の晩７時頃から地蔵講のメンバーだけで御詠歌会を行う。現在の講元は後藤光子さんである。延命地蔵の路地を抜けたところでスナックを経営している。後藤さんの先導で三十三番や地蔵和讃，延命地蔵の御詠歌(6)などをあげる。終った後，来てくれた人（路地を通った人）に素供養としてお萩を配っている。

日曜日の10時頃から，太融寺から僧侶２人を呼んで地蔵盆供養を行う。これには講のメンバーのほかに町内会の役員，町内会と関係の深い場外馬券場の所長と副所長が参加する。読経の後それぞれ焼香する。これには済生会病院の乳児院の子供が招かれ，式が終った後にあがった供物が配られる。

場外馬券場と延命地蔵とはつながりが深い。現在の社がつくられたときにも場外馬券場は寄付を行っているし，祠の修理などのときにも寄付をしている。御詠歌会前日の社の清

掃や準備にも場外馬券場から若い職員が手伝いにくる。場外馬券場は町内の住民と円滑な関係を保つ必要から，つき合いの一貫として地蔵祭祀に関わっているようである。

また近年は北向地蔵にならって，毎月24日に太融寺の僧を招いて月並み祭を行っているが，これには当番の者くらいしか参加しない。

(2) 祭祀の変遷

現在延命地蔵が祀られているところにかつては井戸があった場所であった。延命地蔵はその井戸から出てきたといわれている。以来祀る場所が移動したことはない。かつてはその長屋に住んでいたものだけで講をつくり祭祀を行ってきた。昔はおもに子供のための行事で，子供を集めて紙芝居をやったり，お菓子を配ったりしていたという。当時は近隣の西善寺が世話をしていた。昭和55年に中央競馬会の場外馬券場増設を巡って地域住民に対立があったが，それと関係して反対派である西善寺から太融寺にかわった。

昭和53年に社を新築したときから後藤さんが講元となり，町会が援助をするようになった。後藤さんによれば，援助といっても行事の準備に男手が手伝いにくることを除けば，年に三万円の金銭的な援助があるくらいで，実際はほとんど講のメンバーだけで世話をしているのだという。

現在地蔵講に参加しているのはかつての牛丸町区域に住んでいる年配の女性たちである。

(3) 延命地蔵の参詣者

外からくる人のお参りは土曜，日曜が多いという。場外馬券場ができてから賽銭の総額があがっている。この延命地蔵もお参りしてから馬券をかうとあたるといわれていた。場外馬券場の増設をめぐって土，日曜日の場外馬券場周辺の混雑が社会問題となった。それで，現在は場外馬券場のガードマンが簡易ガードレールを付設して客の流れを誘導している。それで人の流れが変わってしまったのだが，以前は地蔵のある路地は場外馬券場にゆく人通りが多く，途中でお参りしてから馬券を買う人も多かったのだという。御賽銭の額は場外馬券場ができる前は年に二千円くらいだったが，少なくなった現在でも月に二，三千円ははいっているという。

・ 地蔵盆行事の参与観察

次に昭和63年に行われた三地蔵の地蔵盆行事について行った参与観察の結果について報告する。

① 北向地蔵の地蔵盆行事

北向地蔵については，以下の日程で護摩供養大祭と盂蘭盆供養がおこなわれた。

護摩供養大祭　8月23日（火）

12:00　すでに地蔵の飾りつけと祭壇の用意がなされており，その前に4人掛けの長椅子が5脚が用意されており，熊野本宮大社の行者12人が座って装束を調えるなどしている。

12:30　行者が立ってほらがいを吹きはじめる。導師は読経開始。他のものは錫杖を振る。儀礼の間にもひっきりなしに参拝者が焼香する。12人ほど集まっている。

12:36　行者達はほらがいを吹く先頭に続きながら列になって商店街のきよめに出発する。

12:52　行者達が戻ってくる。長椅子に座って休憩。

来賓席には阪急電鉄役員，商店会会長など10人ほど集まってきている。

1:00　本田氏が前に立って挨拶し，護摩供養の儀礼が開始される。導師一人が前に出て表白文を読み上げる。ついで護摩壇に火がつけられる。

儀礼中，本田氏が承侍のように導師の世話をしている。御堂の後ろには阪急からの手伝いが数人控えているが，こちらは儀礼には手を出さない。そこには御守りが箱に入って山積みされている。儀礼の最後に，御札を三宝に積み上げ，次々に導師に手渡しし，性根をいれてゆく。御守りは必ず本田氏を通して，導師に手渡される。阪急からの手伝いは御守りを盛ったり，運んだりするだけである。

1:40　護摩供養大祭の儀礼が終了。最後に本田氏の挨拶があった。

盂蘭盆供養大祭　8月24日（水）

9:00　会場の設置，椅子の運搬などの準備が進められる。供物の準備には阪急社員は手を出さず，本田および東山，松村の三氏によって行われている。祭壇は三段になっており，最上段にりんご，もち，すいか。二段目に桃，椎茸と昆布，葡萄。三段目に菓子の包みが，三宝に盛られて並べられている。前日より大がかりになっている。

9:20　西宮の御詠歌会の人々到着する。総勢約10人。そばのうどん店しのぶ庵が控え室としてつかわれる。

9:40　太融寺の僧侶3人が到着。裏の倉庫が控え室となっており，そこで着替えをする。

9:58　すでに参詣者は25人ほど集まってきている。

10:00　本田氏の挨拶の後，読経開始。導師は麻生住職。儀礼中の表白では，阪急三番街商店の商業繁栄，家内安全，阪急電鉄株式会社の交通安全，企業繁栄，信者関係家内安全等が祈念される。

読経の中，本田氏の司会で奉讃会会長，阪急電鉄の代表などの来賓がまず奠香し

た後，一般参拝者による奠香が行われる。奠香すると，おさがりとして御菓子の包みが配られる。一般参拝者のほとんどが女性と年配の男性であり，圧倒的に熟年の女性が多い。全体の三分の二強を占めている。

10:30　一般参拝者の奠香が終り，儀礼が終了する。本田氏の終りの挨拶があり，僧および来賓が退場する。

祠のそばの奉讃会事務所で前日御性根入れした御守りの配布が行われる。30人以上の人だかりができる。10:45 まで人だかりが絶えなかった。

御詠歌会は御詠歌をはじめる。御詠歌をやっている後ろから拝むもの，前で線香を供える人などがある。

10:45　御詠歌終了。

② 梅田地蔵の地蔵盆行事

梅田地蔵の地蔵盆供養　8月24日（水）

1:00　地蔵の祠の前に仮の祭壇のようなものがつくられ，果物や野菜の盛り物やおこわが供えられてある。社の前の通りに綱が張られ，全部で20ほどの提灯が吊されている。提灯にはすべて曽根崎上二丁目町内会と書かれている。雨模様だったせいか祠の前にテントが張られてあり，折り畳みの椅子が15脚ほど並べられている。10人ほどの人が椅子に座って世間話をしている。

壁には供え物を出した人の名前と，金一封，清酒2本などのように供え物の内容とが紙に書かれて張り出されている。1:00の時点で48件。その後も次々と供物をもってくる人があり，その度に紙に書いて張り出す。最終的には60件になった。

来る人は皆顔見知りのようであり，中には久しぶりの挨拶をしているものもある。

1:55　太融寺の僧2人が到着。割烹菊屋が控え室になっている。この時点で社の前で待つ人の数は20人ほど。

2:00　僧侶の準備ができ，祭壇の前に座ると儀礼開始。特に挨拶はなし。

導師は麻生住職。表白では商店街の繁栄や家内安全が祈念されていた。

読経にあわせて参加者が順に奠香する。奥からも人がきて奠香するが，地元関係者以外とおもわれる人はほとんどいない。

2:30頃　儀礼の終了。僧侶は寺院に帰り，参加者全員で供物椅子等の片付け。そのあと割烹菊屋にて親睦会が行われた。

③ 延命地蔵の地蔵盆行事

昭和63年は日を早めて次の日程で御詠歌会と地蔵盆供養が行われた。

地蔵盆御詠歌会　8月20日（土）

6：40　七時頃から始まるという話だったがこの時点で，後藤さんともう二人しか来ていない。1人は副講元の松本すみえさん。もう1人は町会会計の柳田さん。子供は町内らしい子が4，5人いるだけである。

7：00　さらに2人くる。しかしすぐ2人抜ける。そのうち1人は柳田さん。

7：21　後藤さんの先導で御詠歌会が始まる。このとき参加者は5人。前に出て一緒に御詠歌をやっているのは，後藤さんと松本さんだけ。残りの人達は椅子に座って聞いている。

7：32　総勢八人になる。2人と三好さん。後藤さんによれば，今年は参加者が少なく，例年ならばもう5，6人多いという。今年は病気をしている者が多いためだとのことである。

7：42　地蔵和讃が始まる。後藤・松本さんに加え，三好・長谷川さんが参加し，打ち鳴らしを鳴らす。他の人たちは後ろで椅子に座ってみている。(7)

※　他の参加者は，小島すえ子，木島ため，則武慶子，財賀種子であり，すべて講の構成員

7：50　地蔵和讃終了

御詠歌や和讃を行っている間や終わってから後にも路地を結構人が通る。見知っている人が多いらしく，挨拶などを交わしている。会が終わった後，通った人には粗供養の御萩を渡していた。

ちょうど終わった頃（7：53頃）に前会長の植田氏がくる。親しげな様子で参加者とはなしている。植田氏の奥さんも講に参加しているらしい。(8)

その後すぐ（8：00頃），現会長の加藤氏ともう1人がくる。ビールとジュースをそれぞれ1ダースづつ差入れ。その後まざって飲む。男性はこの3人のみ。3人ともすでにかなり酒が入っている。偶然，同日梅田東小で盆踊り大会があり，そちらで飲んでからきた。「こちらにきてから盆踊りにいくのか本当ではないか」と後藤さんが植田氏に文句をいっている。

延命地蔵地蔵盆供養　8月21日（日）

10：45　場外馬券場側の路地から太融寺の橋本院代が自転車でやってくる。反対の路地からもっと若い僧がくる。三好さんの家が「宿」（装束を着替える家）になっている。

11：00　儀礼の開始

11：17　儀礼の終了

町会からの参加は，準備の時，会計柳田さん。儀礼には会長と副会長の2人。

乳児院の子どもは4人。後藤さんによれば，例年より少ないそうだ。先生が2人。

途中から競馬会の所長，副所長がきて焼香する。

儀礼の後男達は会食。松本さんが乳児院に供物（ビスコ，すいか，お茶1本）を届ける。女性達は特に正規ではないが，幾人か集まって食事をするらしい。

・　大阪梅田に見られる地蔵祭祀の特徴と地域特性との関係

梅田地域の地蔵祭祀の現状は，置かれている地域が近接しているにもかかわらず，各々異なっている。しかしその祭祀の変遷についてみてみると，共通して地蔵の祭祀が地中からの出土に始まっていることがわかる。三つの地蔵とも，掘り出した個人，もしくは団体が祭祀をはじめている。そしてその際には祟というものが，多かれ少なかれ祭祀をはじめる動機の一つになっていると考えられる。

つまり，ここでは地蔵を一種の地主神(9)とみなすことができるのである。典型的な例として梅田地蔵を見るならば，事故や病気の流行などの災禍の発生を地蔵の領有する聖地を冒したという罪科的行為にたいする祟と認識し，「祀り捨てられた」状態にある地蔵を「祭り上げる」ことによって，その祟を回避し，逆に地蔵から恩恵を得ようとしたものと解することができる。

「祟の観念や習俗が拘束性をもつのは，受容される文化的基盤があるから」(10)であると考えられるが，この文化的基盤に照らして考えるならば，祟を発生させた罪科の内容は，領有されていた土地を利用して，祀るべき義務を負う者が正しいやり方で祭祀を行わないことである。出土した土地を所有するもの，出土した土地を含む地域共同体，工事関係者など出土に関わったものが，祀るべき義務を有するものと考えられていることがわかる。

そして伝統的には地蔵盆祭祀の祭祀主体となっているのは，この義務を負う範囲にある者の共同体である。一方では，各地で見られる地蔵盆行事は義務を負う共同体による祭祀が継続されている状態であると考えることができる。

仏教大事典等(11)で「地蔵盆」の項目を見ると，1)西日本，特に近畿地方で盛んに行われる8月24日の地蔵の縁日であり，2)寺や地域で祭っている地蔵に飾り付けをしたり供え物をあげる。3)そのとき子供がかかわる行事が行われたり，4)御詠歌，百万遍の数珠回しなどの仏教民俗行事が行われる。などが特徴としてあげられている。

この伝統的な地蔵盆行事とは第一には地域共同体が主体となって行う地域の守護神としての地蔵への供養儀礼であり，そこでは町内安全，火事・疫病避け等が祈念される。そしてまた地蔵は子供と習俗的に密接な繋がりをもつが故に，地域の子供を主体とした地域の親睦会的な行事が同時に行われるのである。

今回調査した梅田地域ではあまり子供が地蔵盆行事に関わっていない。伝統的な形に最も近いのは延命地蔵の地蔵盆行事であるが，子供の行事への関与はかなり形式的なものとなっている。実際調査地域である梅田では，子供の数が少なくなっており，子供中心の儀礼はできなくなっていると度々説明される。

伝統的な形に非常に近い形を大阪駅周辺の地域では，太融寺内にある黄金地蔵の地蔵祭祀に見ることができる。黄金地蔵はもともと太融寺町の新御堂筋沿いの道端にあり，太融寺町会が世話をしていた。昭和53年頃道路工事のために移転を余儀なくされ，他にしかるべき場所もなかったため，太融寺町会が太融寺内に移転した。太融寺町会副会長塩田憲吾氏によれば，敷地を借りておかせて貰っているだけであり，現在でも地蔵盆の行事は太融寺町会が中心となって行っているとのことである。

太融寺には黄金地蔵の帳簿がおかれてあり，地蔵の供養に参加したいものはお金を添えて，そこに名前を書いて貰う。すると地蔵盆の時に飾られる提灯にその名前が入れられる。太融寺町をふくめた，より大きなブロックとして北野地区(12)があるが，寄付をするのはほとんどその北野地区の人々であるという。

黄金地蔵の地蔵盆にはヨーヨー釣りなどの出店が出るなどして，他の地蔵盆では見られない大勢の子供の姿を見ることができる。地蔵へのお供えも数の多い菓子類を多くして，供養儀礼の後子供達に配っている。このように子供を集めることが可能であるのも，現在の黄金地蔵の地蔵盆が太融寺町一つの行事ではなく，その隣接町会をあわせた北野町会連合の行事となっているためである。北野地区はほぼ曽根崎小学校の学区と重なっており(13)，学校を通じて子供達が集められている。盆供養の儀礼についても北野町会の町会長および有志にあらかじめ案内を出しており，儀礼の後にはその親睦会が行われている。

梅田地区の三地蔵の地蔵盆行事においても，従来の祭祀を支える地元の地域集団から見ての地蔵盆供養を行う意義は，まず子供の祭であり，地蔵の供養を行って町内安全を祈願し，あわせて地域の親睦をはかるというものであったと考えられる。

こうした共同体中心の地蔵盆行事では，祭祀に共同体外部の人間が関わらない形をとると同時に地蔵の祟にしろ，御利益にしろ地域共同体に閉じたものとなっている。

地蔵盆行事など定期に行われる儀礼だけに限るならば，北向地蔵以外の梅田の地蔵の行事は現在でも地元において祭祀を行っている集団に閉じたものとなっているが，日々の参拝者を含め全体としての梅田の地蔵祭祀をみると，外部からの信者を組み込んだ形になっている。地域と関わりの深い地主神というよりも，より開かれた流行神的な性格を帯びてきているのである。

日常の外から多くの参拝者があり，多額の賽銭を落してゆく。その数はますます多くなっているし，地元の人間も参拝するものを想定して蠟燭，線香などの用意を行っている。

特に北向地蔵では地蔵盆行事も外部信仰者に向けられたイベント的形態をとっている。まさに本田氏が儀礼の大部分を企画し，元阪急社員の2人がその補助を行って，外からやってくる信仰者に向けて儀礼を行っている感がある。大口の施主である阪急電鉄，阪急三番街商店会については，儀礼中でその繁栄が祈念されているものの，来賓と同じく外から参加するだけで，儀礼に積極的に参加しているようには見えない。熊野本宮大社の行者や太融寺の僧侶も儀礼を司ってはいるものの，行事全体にイニシャティブをもつものとはいえない。(14)

外から参加する信仰者たちも，原則的には個別的で横のつながりがあまりない集団である。各々が個人的祈念で地蔵と一対多的なつながりをもっているだけと考えられる。

こうした地蔵の地主神的なものから流行神的なものへの性格変化に伴って，祟・御利益の意味付けに変化がおきている。

御利益と祟は表裏一体の関係にあり，ともに地蔵のカリスマを表す指標となっている。そのこと自体は変わらないが，地元の人間と外部の一般参拝者とでは強調される重心が違ってきている。地元の人達にとって「御利益のある仏（神）様だから粗末にすると祟がある」のに対して，一般参拝者にとっては「祟るような仏（神）様だからこそ御利益がある」のである。

たとえば，梅田地蔵の顔を欠いていく者があるなどの事実は，祟よりまず御利益が念頭にあることを示すものと解せる。ともに祟が祭祀の動機付けの一つとなっている点は同じであっても，その影響力が地元の人間にとっては半ば強制的に作用するのに対して，外からの参拝者にとっては選択的なものであるにすぎない。

梅田という地域が人の移動ということにおいて外に対して開かれた形態をとっており，またマスコミなどの影響で情報という面でも外に開かれていることがこの地蔵の流行神的な変化に拍車をかけていると考えられる。

それとともに梅田地区の地蔵祭祀においては地域共同的な要素は弱くなりつつある。

地域で生活するものが地蔵の祭祀を行うという形での祭祀は徐々に難しくなりつつある。たとえば梅田地蔵においては，日々の世話をする地元の人が次々に移住してしまい，この15年間に三回も交替している。北向地蔵の本田氏にしても，郊外の実家から毎日通って世話をしている。延命地蔵などは旧牛丸町地区に住む年配の女性達による地蔵講によって日々の世話が行われているのであり，地元の後継者も今のところ見あたらない状態である。

こうしたことの背景には，大阪駅周辺の地域において，職住分離による生活空間としての性格の希薄化が進みつつあるということがある。

梅田地域においてここ十数年来，土地を売ったりビルにして私鉄沿線の郊外に居を移す人が非常に多い。相変わらず店は梅田にあっても実際の住居は郊外にあり通勤して来ると

いう人もかなりあるという。

そのため町会のみかけの構成員数は減らなくとも，その地に住む人の数は確実に減少しつつある。

曽根崎上二丁目町会の塩野氏によれば「梅田周辺は交通の便はよいのだが，環境的には住みにくく，特に子供をもった若い世代は，梅田周辺に職場をもっていても郊外から出勤して来ることが多い」のだという。

また近来の地価の上昇により，より小さい空間，短い時間でより高い収益性が追求されるようになり，「大阪駅の周りは皆ホテルか，飲食店になってしまう。ビルが建つ度に西善寺の地元檀家が減ってしまい，昔はほとんど地元の檀家ばかりであったが，いまでは地元の檀家の方が少なくなってしまっている」と西善寺住職は語っている。

そうした中で，ともに生活を営む地域共同体からともに商売を行う商店街へと地蔵の祭祀主体の性格が変化してきている。梅田地蔵ではお初天神通り商店街が地蔵盆行事に深く関わるようになってきているし，北向地蔵においては阪急三番街商店会が北向地蔵奉讃会の母胎となっている。

地蔵の利益（祟）も客の集散に関って商業の神的な性格を帯びつつあるようだ。多くの人を集めているという事実自体，地蔵のカリスマ性をより強く意識させる。これにはマスコミなども相互補強的に作用している。都市的地域で多くの参拝者を集めているという事実がマスコミに報道される理由となると同時に，マスコミに取り上げられることがまた参拝者を増やす要因となっている。

特に北向地蔵においてはその立地がターミナル駅として一過的に多くの人が集まる場所であり，そのことが地蔵の参拝者を増やし祭祀を盛んにしている主要な原因の一つとなっていると考えられる。多くの参拝者を集める地蔵は繁栄する地域の象徴であり，奉讃者が商店街である場合商店街の賑わい自体地蔵の御利益と意識されるようである。(15)

・　まとめ

かつて共同体内に閉じた行事であったものが，外から訪れてくる人を中心とする行事に変化する。これは都市化によって都市の祭礼にみられるようになる変化(16)と同じものである。かつて地蔵は祟るという意味においても，恩恵を与えるという意味においても，地元の地域共同体の中でのみ意味をもっていた。それが，梅田に起きた都市ターミナルとしての交通条件の整備やマスコミの働きによって，より広い外に対して開放された意味をもつようになったのだといえる。

梅田に起こった地域変化は，都市地域が都市的性格を増してゆくという意味での都市化の一種と考えることができる。地価の高騰によって，空間の高度利用（収益性，密集性）が要請されるようになり，生活空間としての性格が失われた。その結果，従来の地域共同体としてのまとまりの意味も失われてしまった。そのため梅田地域の地蔵祭祀はその地域共同体的祭祀の性格を弱めつつある。

現在の梅田地域は全体が一律に周辺（通過点）的な性格を帯びてきている。大阪駅自体どこかに向かうための通過点であることが多い。そこを訪れることが主目的なのではなく，どこかに向かうついでに立ち寄る場所であり，その空間的特質はかつて「市」がもっていた周辺的性格に極めて近いとおもわれる。

梅田地域は一過的に多く人の集まる場所であり，そのことが地蔵の参拝者を増やし祭祀が盛んにする原因となっている。一方，逆に地蔵への祭祀行動自体が人を集めているという側面もある。奉讃者が商店街である場合には，多くの参拝者を集める地蔵は繁栄する地域の象徴であり，商店街の賑わい自体地蔵のお蔭と意識される。

梅田の地蔵祭祀は地域の変化に適応する形で，新しい宗教的性格が獲得されたものということができる。いいかえるなら共同体的宗教性の後退と「市」的な周辺の宗教性の伸長である。

今回は定期に行われる地蔵盆行事についての調査を中心としたものであったが，元来地蔵に行われる供養行事自体は地元地域集団が行うのを基本としているため，どうしても祭祀主体側の地元地域集団に焦点をあわせた考察となりがちであった。しかし梅田地域の地蔵祭祀の特色を明らかにするための考察を行おうとするのであれば，集まってきている参詣者に直接焦点をあわせた調査研究を行う必要があるだろう。今後の課題としたい。

・ 註

（1） 北向地蔵奉讃会事務局「北向地蔵尊のしおり」

（2） 岡田松之助を開祖とし，関西に本部をもつ新宗教教団。家相，墓相，安産御符その他の因縁解消法によって，市場関係者，自営業者の信者を多く獲得した。 『新宗教事典』（平成２年弘文堂）

（3） 芳名帳に書かれた名前の三分の一は庁舎建設工事に関わったと思われる法人名であり額も多い。

（4） たとえば昭和60年10月24日付け朝日新聞夕刊（大阪版）に「曽根崎署内にギャンブル地蔵　口コミで人気沸騰」の記事が見られる。

（5） 旧芝田二丁目と牛丸町が一緒になって現芝田二丁目となったが，それ以前から田丸会という形で町会は一つであり，それが現芝田二丁目町会となった。

（6） 延命地蔵の御詠歌をやるようになったのは，後藤さんが関わるようになってから。大和の下市にある延命寺で習ったものであるという。

（7） 調査時にビデオカメラを持ち込んだため恥ずかしがって参加者が少なかったものらしい。

（8） 植田氏は芝田二丁目町会が地蔵に関わるようになった当時町会長であった。

（9） 「地蔵は地神とも関連し，土地に密着した守護霊の役割も果たしている。」 宮田登『江戸の小さな神々』（平成１年　青土社） P18

(10) 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（昭和48年　東京大学出版会） P524

(11) たとえば『仏教大事典』（平成１年　小学館）の地蔵盆の項など。

(12) 北野連合は太融寺，兎我野，堂山，亀山，野崎，曽根崎上一丁目，小松原の７つの町会からなりたっている。

(13) 曽根崎小学校は三年前にその東にあった堂島小学校と合併されており，昭和63年調査を行った時点ですでに東梅田小学校と合併されることが決っていた。

(14) 宮田登は流行神現象に見られる共通点の一つとして，「流行神出現にあたってこれを宣伝する宗教者が介在すること」をあげているが，北向地蔵の場合これにあたっているのは，熊野本宮大社の行者でも太融寺の僧侶でもなく本田氏である。

(15) ダイヤモンド地下街建設の停止と片福線の駅の開設が遅れているために，営業不振が続いている駅前第一ビル，第二ビル商店会では，活気を取り戻すために各々のビルの屋上，二階駐車場にある福永稲荷と徳兵衛大明神を地下におろすことが検討されていると聞く。

(16) 松本誠は都市における祭の特徴の一つとして，早くから外からやってきて「見る者」の存在を前提としていたと述べている。『祭の文化』（昭和58　有斐閣）P43

The *Jizō*-Cult in the Umeda District of Osaka

Okimasa Murakami

Drawing on the results of a survey of Jizō worship which was conducted in the Umeda district of Osaka from 1986 to 1988, this article considers the relationship of the urbanization after World War II with a transition in the custom of worshipping Stone-Buddhas. Especially after the International Exposition at Osaka in 1970, the development of residential areas in the surburbs of Osaka added to the Umeda district the character of an urban-terminal area, and weakened the character of the living space. Consequently, the character of Jizōs in the Umeda district has also changed, from that of gods which guard the inhabitants of the area they occupy, to that of gods which confer a benefit on the believers visiting their shrines.